

OSD 計算 UCS 240M4 の置換- vEPC

目次

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[Mop の作業の流れ](#)

[省略形](#)

[前提条件](#)

[バックアップ OSPD](#)

[OSD 計算ノードでホストされる VM を識別して下さい](#)

[電源遮断の段階的](#)

[ケース 1. OSD 計算ノード ホスト CF/ESC/EM/UAS](#)

[STANDBY 状態への移行する CF カード](#)

[ESC からのシャットダウン CF および EM VM](#)

[スタンバイ モードへの移行する ESC](#)

—
[新星集約 リストから OSD 計算ノードを削除して下さい](#)

[2. OSD 計算ノード ホスト自動導入/自動IT/EM/UAS を包装して下さい](#)

[自動導入の CDB をバックアップして下さい](#)

[自動 IT からの system.cfg をバックアップして下さい](#)

[OSD 計算ノード 削除](#)

[Service リストからの削除 OSD 計算ノード](#)

[削除中性子エージェント](#)

[新星および皮肉なデータベースからの削除](#)

[削除はからの曇ります](#)

[新しい計算ノードをインストールして下さい](#)

[曇に新しい OSD 計算ノードを追加して下さい](#)

[サーバ 置換設定を掲示して下さい](#)

[VM を復元する](#)

[1. OSD 計算ノード ホスティング CF、ESC、EM および UAS を包装して下さい](#)

[新星集約 リストへの付加](#)

[UAS VM のリカバリ](#)

[ESC VM のリカバリ](#)

[ESC からの CF および EM VM を回復して下さい](#)

[ケース 2. OSD 計算ノード ホスティング自動 IT、自動導入、EM および UAS](#)

[自動導入 VM のリカバリ](#)

[自動 IT VM のリカバリ](#)

[ハンドル ESC リカバリ失敗](#)

[自動導入 設定アップデート](#)

[Syslog を有効に すること](#)

概要

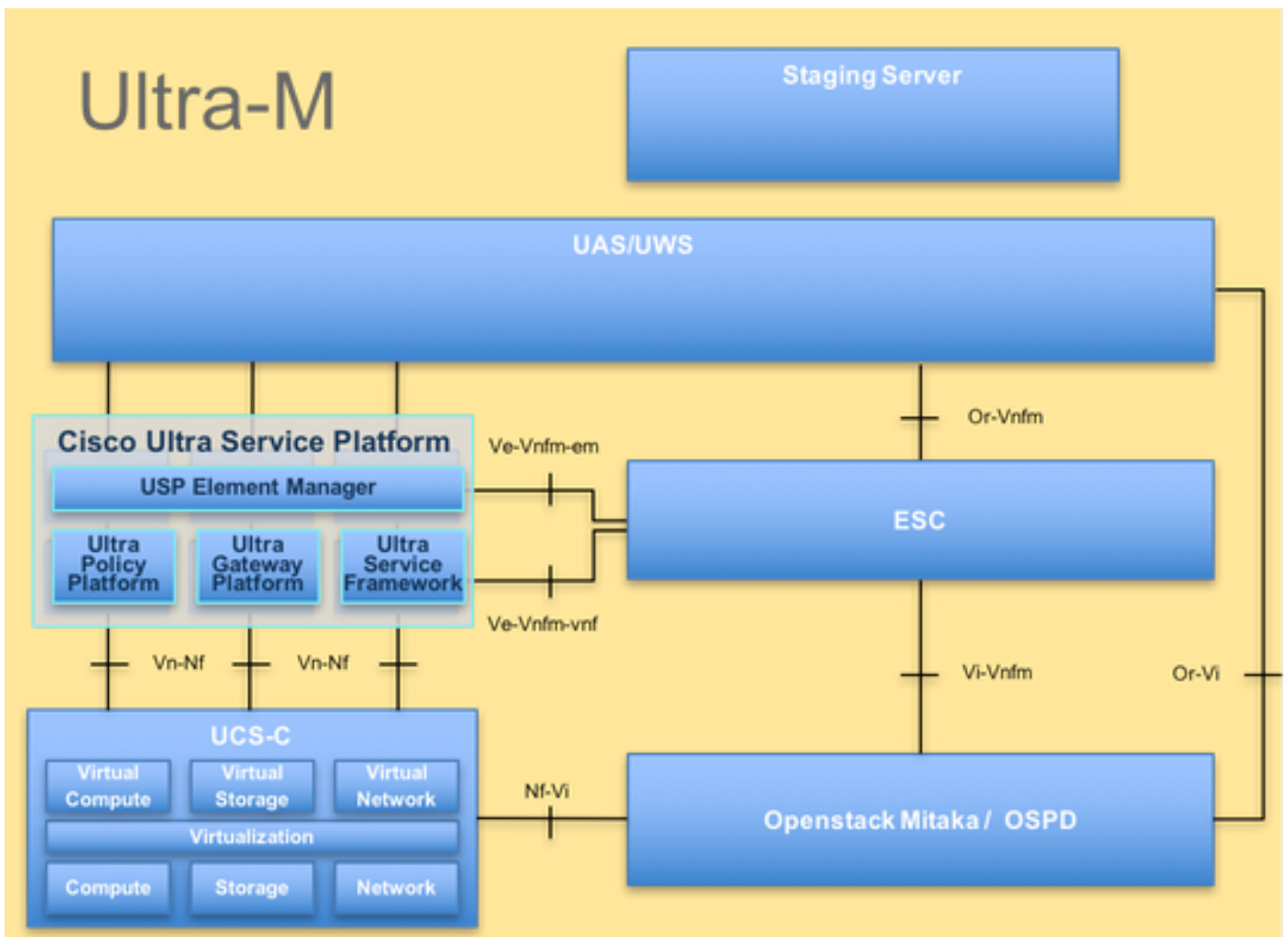
この資料はホスト StarOS バーチャルネットワークが機能すること不良なオブジェクト ストレージ ディスク (OSD) を取り替えるために必要となるステップを-計算します設定される Ultra-M のサーバを記述したものです (VNFs)。

背景説明

Ultra-M は VNFs の配備を簡素化するために設計されている事前包装され、検証された仮想化されたモバイル パケット コア ソリューションです。 OpenStack は Ultra-M のための Virtualized Infrastructure Manager (VIM) で、これらのノードタイプで構成されています:

- 計算
- OSD - 計算
- コントローラ
- OpenStack プラットフォーム-ディレクター (OSPD)

Ultra-M の高レベル アーキテクチャおよび含まれるコンポーネントはこのイメージで描写されます:



この資料は Cisco Ultra-M プラットフォームについて詳しく知っている計算サーバ 置換の時に OpenStack および StarOS VNF レベルで遂行されるために必要となるステップを詳述します Cisco社員ののために意図され。

注: 超 M 5.1.x リリースはこの資料の手順を定義するために考慮されます。

Mop の作業の流れ

